

四万十町の光を発信するフリー・ペーパー

vol.

# リぐらんと 13



TAKE FREE

このまちはいろいろな光がある  
大きいものから小さいもの、強いものから弱いもの  
そんな光の反射角度を変える

私たちだからこそ見える光を発信していきます

リぐる、念を入れる、

時には全力を出して、時には力を抜いて

右に左に傾いて、それでいいんだ  
リぐらんと、リぐらんと

## もくじ

01 大地で働く逞しい男たち

02 後世に残したい上山神楽太鼓

03 四万十町の山登り 轟の滝

04

四万十町の光を発信するフリー・ペーパー

# リぐらんと

05 あの店の、モーニング



# 01

## 大地で働く 逞しい男たち

たくま

架線作業で皆伐する

田村林業

筆者は、長野県内で林業や木材産業にかかわる仕事をしていたことから、高知県の山肌を見ていて気になることが二つあります。一つは、高知県の山肌が長野県の山より緑色が濃いこと。もう一つは、皆伐された山肌を数多く見ること。緑色の原因是、針葉樹の人工林比率が高いこと、皆伐については、伐採の適齢期を迎えた森林一帯を丸ごと伐採する現場が目立つことを意味しています。そこで今回は、四万十町の主要産業の一つである林業にスポットを当てたいと思い、「架線集材」という方式で、皆伐を手がける田村林業さんを取材しました。

田村林業の田村眞則社長の先導で、山あいの現場にたどり着くと、伐採された針葉樹の山肌が目に飛び込んできました。広い山地に高く生えていた針葉樹たちが、まるで野菜のようになぎ倒されている光景に驚きました。

ふもとの現場には、ハーベスターとグラップルという高性能林業機械が存在

感たっぷりに陣取っています。丸太をわしづかみできるハーベスターの先端には、大ぶりな金属製の特殊装置が付いていて何やら不気味な感じが漂います。

印象的でした。この機械は、全長1kmにも及ぶようなワイヤーの出し巻き機で、架線集材の主役ツールといつてよいでしょう。

ちなみに、木材の搬出法には、既設の林道に加えて、新たな作業道を開設し、トラックで搬出する方法もあります。業路開設の手法は、その

### 架線集材の仕組み

架線集材の基本原理は、伐採現場の山肌に極太ワイヤーを一くりに敷設、それを現地に生えている複数の立木と滑車を用いてワイヤーを緊張させながら、ワインチでワイヤー



立木に滑車を設置した様子

を回転移動させることで木材を搬出場所まで引き寄せる仕組みです。

現場に到着して間もなく、スタッフが数人がかりで、ふもとの立木にワイヤーと滑車を装着する作業に当たっていましたが、最初は何をしているのか理解できませんでした。



極太のワイヤーを出し巻きできるワインチを操作する様子



現場に到着してから1時間以上たった後、架線集材の作業が始まりました。山肌から一度に5、6本の木材が宙づりになつて、ふもとに引き下ろされて来る光景は一見の価値があり、架線作業の見学は、観光商品化も可能と思うぐらいインパクトがあります。

写真ではわかりづらい

### 架線集材の印象

伐採木をぶら下げる専

かもしれませんのが、架線集材は、ロープウェイのように山肌を移動する専用ワイヤーと、そのワイヤーの一点から木材をぶら下げる専用ワイヤーの2系統からなり、縦と横の動きで木材が搬出されます。

用ワイヤーが搬出元に到着すると、現地スタッフが5、6本の伐採木の根元に、ワイヤーの先端を引っ掛けます。その後、ワインチオペレーターが目視と無線交信を経てワイヤーを動作させると、枝葉が付いた伐採木が、本来の姿とは逆さまの形で宙づりになりながら、ふもとまで降りてきます。



**高性能な林業機械**

この日の搬出作業は5人1組。搬出元で木材をワイヤーに掛ける人、ワイヤーから解かれた木材をハーベスターで加工処理するオペレーターと、ウインチ操作が各1人。それ以外にふもとに運ばれた木材をワイヤーから外す人が2人いました。

伐採木は1本当たり数百kg～2tの重量があり、数日前までその地に生えていた存在感に満ちたものですが、架線集材にかかると、伐採木たちはまるで人間に降参したかのようにぶら下がって降ります。大きな獲物がハンターに仕留められたかのように、人間の知恵の威力と破壊力のようなものを感じました。

の根元をつかんだかと思うと、木材を下方から上方に滑らかにスライドさせながら枝葉を瞬く間にカット。すぐさま根元に移動したと思いきや、所定の寸法に木材を自動計測しながら速やかに玉切りしていきます。1本の加工処理に要する時間は1分にも満たないほどの素早さ。この機械の動く様子は、ターミネーターのようでした。

ハーベスターは、伐採木

### 格好いい男たち

架線集材作業の真っ最中、同行した写真撮影担当の男性隊員と思わず意気投合してしまいました。「この現場、女性が見たら惚れてしまうで！」現場一帯が『男の仕事現場』という雰囲気に満ちているのです。ウインチを操作していた福山聖児さんは、谷干城ミュージカルに出

演するイケメンですが、F1ドライバーのような欧米スタイルの作業服姿も様になつています。

1日の作業を終えて、勢ぞろいした社員さんに林業の良いところを訪ねると、「毎晩おいしいビールが飲める」「おいしい空気が吸える」「秋には松茸が採れたりする」などと答えてくれました。



高知県の森林率は84%で全国一。人工林比率も65%と非常に高く、雨の多さも全国一。高知県は、全国的に高温多雨の県であり、木材が早く育つという地の利があります。四十町は、県内で最も面積の広い自治体で、四十ヒノキのブランド

## おわりに

木材の輸入自由化や社会情勢の変化に伴い、国産材の単価は長らく低迷が続き、地元の林業や木材産業を取り巻く環境は厳しいものがあるようですが、良質な木材が育つ自然環境の地の利や、長年にわたりこの地で育まれてきた基幹産業の伝統文化を継承し、いかしていくことは改めて大切だと思います。



四十町で生まれ育った若者たちに、いきなり林業従事者になつてほしいとは言いづらいですが、せめて、自分が家を建てる際には四十ヒノキや国産材で地元工務店に発注し、無垢材の家を建てるすることを思い起こしてもらえたたら嬉しいです。



材も有する森林資源に恵まれた土地柄です。

## 田村林業株式会社

四万十町下呂地 95-1  
0880-22-8502

代表者 田村 真則  
社員数 12名

Editor / Yutaka Kishi

Photographer / Takahiro Hashimoto

# 02

## 後世に残したい 上山神楽太鼓

小野川章男さん



Editor / Junichi Kubota, Yutaka Kishi

Photographer / Takahiro Hashimoto

旧大正町田野々の熊野神社大祭や河内神社の芸能行事で披露される『上山神楽太鼓』をご存知でしようか。実はこの太鼓、二つの神社から受け継がれたものではなく、地元出身の小野川章男さんが、有志の二人とともに、地域に根付かせたものだそうです。筆者は昨夏、熊野神社大祭で初めて見て感動し、自分もやつてみたいという衝動に駆られ、一人前の叩き手を目指し練習に励んでいます。そこで今回は、上山神楽太鼓の魅力や地元にお話を伺いました。



## 由来は津野山神樂

上山神樂太鼓は、津野山地域（現在の梼原町と津野町）の津野山神樂太鼓が由来だそうです。津野山神樂はもともと18の舞（踊り）と大小の太鼓、「手拍子」と「篠笛」の4つのパートからなり、演技時間は延べ8時間が間に及ぶものだそうです。

## 太鼓は独学で習得

昭和13年に田野々で生まれた小野川章男さんは、小さいころ知り合いの家からラジオやレコード機を借りてきて、口ずさむほど歌謡曲が好きで、特に千昌夫の「北国之春」や、びんから兄弟の「女のみち」が当時のお気に入りだったそうです。

中学校卒業後、中津川で造林の仕事に就き、その後、宮林署に就職。梼原町松原地区で勤務していた当時、



小野川さんによる手書きの譜面

松原天神祭りに出かけた際に津野山神樂太鼓と出会いました。奏者が刻む「とことこ」「どーんとことこどーん」と単調ながらも無限に感じるリズム、華麗な手さばきとその姿に魅了され、自分もこんな風になりたいと思ったことが太鼓をやり始めたきっかけでした。仕事をしていくうちに奏者が職場の先輩だと知り、神楽太鼓を教わりたいとお願いしましたが、門外不出だつたため楽譜もないまま、

演奏を見たり聞いたりの地道な修行の繰り返し。仕事を現場では、カシの木で作ったバチで、木の切り株を叩いたり、夜はタイヤを叩いたり。次第に腕より手首を上手く使うのがコツではないかと感じ、斧の扱いで鍛えたスナップを利かすようになりましたと言います。

松原地区で20年ほど生活しているうちに、地元の祭典で太鼓を披露できるまでの腕前に上達。仕事中も、太鼓のリズムを口ずさむだけで楽しくなり、仕事も苦に思わなくなつたそうです。

## 上山神樂太鼓の創設

小野川章男さんが昭和58年に田野々へ帰郷した折に、太鼓の同志に出会います。田辺猛さんと、津野福重さん（故人）のお二人です。田辺さんは、太鼓と篠笛が

独学で学ぶこととなります。



田辺猛さん（左）と小野川章男さん（右）



得意で舞も踊れる河内神社の神主さん。津野さんは、好きが高じて自前の太鼓を持つほどでした。

久方ぶりに田野々の神楽太鼓の音色を聞いた小野川さんは、津野山神楽太鼓と基本的なリズムは似ているなど感じ、飛び入りで太鼓を叩いたところ、その腕前に驚いたという田辺さん。地元に太鼓を根付かせたいと思っていた二人はすぐに意気投合しました。後に津野さんも合流し、上山神楽太鼓が誕生しました。

上山神楽太鼓の由来は大正地域がかつて、<sup>かみやま</sup><sub>郷</sub>、あるいは東上山村と呼ばれていたことから、その地名にあやかられたそうです。

### 嬉しい反響

最初は三人だけで、上山神楽太鼓を披露してい

ましたが、太鼓に興味を持つ人がぽつぽつ出始めます。平成15年ごろには、旧大奈路小学校の先生から、発表会のために児童に太鼓を教えてほしいと依頼がありました。発表会を無事に終えた後、小学校の子どもたちから、お礼文が入った大きな封筒が届きました。小野川さんたちは、「これほど嬉しいことはない。続けていてよかつた。」と、涙を流しながら読まれたそうです。





## 上山神楽太鼓について

小野川さんは太鼓の魅力について、「太鼓は古の民が創り出した原始的な楽器。単調ながらも、戦の合図に使えたり、軽快でリズミカルな表現もできるなど、無限の可能性を秘めた楽器だと思う。」と説明。

上山神楽太鼓について  
は、「リズムが単調で簡単に叩けるので、まずは太鼓に触れて魅力に気づいてほしい。基本的な曲と



## 最後に

今春、筆者が太鼓を叩く機会がありました。その地域は上山神楽太鼓と多少リズムが異なりますが、全体的には音色が似ている印象。地域の方から「太鼓練習してるんだつて? 叩いてみて。」とバチを手渡されました。が、基本曲を体得していない私は、上山神楽太鼓を披露できず、悔しい思いをしました。一日でも早く人前で演奏できるようになり、地域芸能の盛り上げの一助となれるよう練習に励もうと決意しました。



# 03

## 第8回 轟の滝

### 四十町の山登り

四十町の「山」の魅力をもつと地域の皆様に紹介したい!と結成された「協力隊登山部」。第8回目となる今回は、四十町沿岸部の志和地区にある「轟の滝」を目指して山を登つてきました!

目的地となる「轟の滝」は、「本轟」・「女滝」・「男滝」の3つの総称です。まずは「本轟」を目指し、志和の清藤地区から登山を開始しました。登山口付近にある、「白王神社」は山の神を祀つており、古くから女人禁制の神聖な場所とされているそうです。

神社を過ぎると本格的な登山道に入り、そこには絶滅危惧種に指定されている岩石蘭が群生しています。さらに山道を登り続けると、延々と続く石垣に目を奪われます。この石垣は何のために作られたのだろうか?と思いつながら進んでいくと、現れたのは炭窯の跡。石積みで造られており、すでに朽ちていますが、かつては炭焼きが行われ、

\* 轰の滝周辺は私有地であるため、無許可での立ち入りはご遠慮ください。

Editor / Koyo Takeuchi

Photographer / Takahiro Hashimoto

できあがつた炭を運ぶために石垣が整備されたということに気づかされました。

「本轟」で小休憩したあと、

向かうは「女滝」・「男滝」。こからは緩やかな斜面が続き、

30分ほどで「女滝」に到着しま

した。「本轟」とは違い、落差

はあまりないものの滝幅が広く

水量があるため、見ごたえがあ

ります。続いてのポイント、「男

滝」はなんと「女滝」のすぐ上

にあり、「本轟」・「女滝」とは

違い、段々になっています。滝

幅は細いながらもかなりの落差

があり、その美しさに圧倒され

ました。

久の時を感じます。

滝」・「男滝」が見えたたらしく、坂から見ると連なつて1つの滝に見えたそうです。そこから「女

滝」・「男滝」が見えたらしく、天候もよく暖かかったため、寒さを気にすることなく、終始笑い声が響き渡る中での楽しい登山となりました。

登山時は2月ということもあ

り、寒さが心配されましたが、

天候もよく暖かかったため、寒

さを気にすることなく、終始笑

い声が響き渡る中での楽しい登

山となりました。

問い合わせ先  
志和活性化協議会  
080-1193-3574

点在する炭窯の跡を見ながら進んでいくと急斜面があり、落下防止用のロープを頼りに慎重に登っていきます。必死の思いで斜面を登り、尾根にてたところで一休み。その後も随所に険しいポイントがありました。登山開始から約1時間半がすぎたころ、1つ目の目的地である「本轟」に着きました。滝幅は大きくありませんが、落差はなんと約15m！ 間近で見るとても迫力があり、周りの岸壁が激しく削られている様からは悠

かつては志和坂からこの「女

滝」で小休憩したあと、向かうは「女滝」・「男滝」。こからは緩やかな斜面が続き、30分ほどで「女滝」に到着しました。「本轟」とは違い、落差はあまりないものの滝幅が広く水量があるため、見ごたえがあります。続いてのポイント、「男滝」はなんと「女滝」のすぐ上にあり、「本轟」・「女滝」とは違い、段々になっています。滝幅は細いながらもかなりの落差があり、その美しさに圧倒されました。

今回、登山のナビゲーターとして同行してくれたのは、「志和活性化協議会」のメンバーの中野正延さん。道案内から貴重な逸話まで聞かせていただき、志和の歴史や信仰を学びながら



# 04

## 第2回 四万十食材図鑑 みょうがの卵とじ



### ポイント

だしは、かつおだししがおすすめ。  
みょうがはさっと火をとおすことで  
色・風味がよく仕上がります。



### 準備

みょうがは斜め薄切りにする。  
卵 2 個はといておく。

### 作り方

1. 鍋にだし汁を入れ沸騰させる。
2. みょうがを入れてさっと煮る。
3. しょうゆ・みりんで味付けし、卵を回し入れる。
4. 卵が好みの固さになったら完成。

### みょうがの卵とじ

四万十町興津は県内有数のみょうがの生産地ということをご存知でしょうか。年間出荷量は約 700t と、須崎市に次ぐ 2 番目の産地になります。

みょうがには余分な塩分を排出して血圧を調整したり、体内の状態を維持する働きがあるカリウムが豊富に含まれています。

薬味として食べることが多いみょうがですが、卵とじにするとごはんに合う一品にもなりますし、食卓にピンクと黄色の春らしい色どりを添えてくれます。

たまにはおかずとして、食卓にみょうがを出してみるのはいかがでしょうか？

### 材料(2人分)

みょうが 6 ~ 7 個  
卵 2 個  
だし汁 150ml  
しょうゆ 大さじ 1  
みりん 大さじ 1



# 05 | あの店の、モーニング

いつもと違う  
1日のはじまりを、  
四万十町の  
モーニングでいかがですか。



国道 56 号線沿いにある喫茶「橋」。地元だけでなく遠方のお客様からも、愛され続け 40 年。ふわもち食パンに甘めの赤飯、たっぷりキャベツに多種多様なフルーツ、スープにコーヒーがついて 550 円。

モーニングは 13:30 まで。

喫茶「橋」

下呂地 173-2

営業日 / 月曜日～日曜日（不定休）

営業時間 / 6:30～14:00

電話番号 / 0880-22-8746



梼原町にある「Chez-moi（シェ・ムワ）」の食パンや、中津川でとれた米・野菜・卵などを使用しています。穏やかな景色が広がる中津川で、ゆったりとモーニングを楽しんでみてはいかがでしょうか？

モーニング 500 円。

中津川集落センター「こだま」

大正中津川 243-1

営業日 / 毎月第 1、第 3 日曜日

営業時間 / 8:30～12:00

電話番号 / 090-9700-7856



旧広井小学校のシェア型レンタルオフィス内にある「パイプカフェ」。カリッと香ばしいホットサンドに炭火焙煎の有機コーヒー。

4 月から新しいメニューで、リニューアルオープン予定です。

パイプカフェ

広瀬 583-13

営業日 / 月曜日～金曜日

営業時間 / 9:30～15:30

電話番号 / 0880-28-5594

## 協力隊便り

### 産業祭で石焼き芋

こんにちは。十和地区担当の熊澤です。昨年12月4日に第13回西部地区産業祭が昭和小学校グラウンドで開催されました。

例年だと開催時期は秋ですが、今回は冬ということもあり、念願の石焼き芋を協力隊ブースで出店してみました。

懸念事項だった風は、ステンレスかまどで対策できたのですぐ、肝心の火おこしがぎこちな

く、周りのブースの方々が助け舟を出すという、少々情けない事態もありました。

肝心の焼き芋は石をとおして熱が入り、熟した甘みと風味がしつとりと口の中ではぐれる感じは狙いどおり。「あまーい！」「おいしいーー！」と言つていただき、用意した芋も全部なくなるほど好評でした。

協力隊として移住して3年になりますが、改めて地域の方々とのつながりを強く感じることができたイベントでした。

3年間協力隊を経験し、地域に根付くことの大切さを強く感じました。卒業後も協力隊での経験を活かし、四万十町にかかるといきたいと思います。



Editor / Syota Kumazawa

Photographer / Takahiro Hashimoto

Editor / Yutaka Kishi,Junichi Kubota,Koyo Takeuchi,Aki Yoshioka,Syota Kumazawa

Photo&Design / Takahiro Hashimoto

Publisher / 四万十町地域おこし協力隊 786-0013 高知県高岡郡四万十町琴平町 1-1 TEL : 0880-22-3161

URL : <http://shimantochiikiokoshi.jp/> Date / 令和2年4月発行